



リーズと 爆弾



リーズ市議会計画部

価格 30p

はじめに

人類が今日、直面している最大の課題はおそらく核兵器の問題である。核戦争が起きたら何が起きるか正確に知っている人はいない。しかしながら、市議会は当市に対する核攻撃の考えられる帰結をリーズ市民に周知する義務があると感じている。このブックレットは、我々のコミュニティと家族と友人たちに何が起きうるのかという、客観的描像を提示する。

立案・編集
市議員ブライアン・ノー員
計画開発委員長

執筆・調査
ジェフ・ジョーンズ
計画部調査員

イラスト: マイク・ピース

地図: リチャード・アスカム

激励とサポートに感謝する:

市議員ジョージ・マディー リーズ市議会議員団長
市議員ダグラス・ガブ勲位 平時非常時計画小委員長

リーズ市議会は、このブックレット制作に協力いただいた方々に感謝する:

Dr. M. Dardo, G. Crosskey, ブラッドフォード大学平和研究学科

Dr. C. Clarke, ヨーク大学数学科

Dr. J. Baruch, リーズ大学物理学科

D. Horton, J. McMillan, G. Westmacott, リーズ大学SANAグループ

Dr. A. Cameron. M.C.A.N.W.

G. Morgan-Grenville, ECOROPA

S. Openshaw and P. Steadman, SANA

市議員M. McGowan

A. J. Shelton, J. Davies, A. Wood, L. Watson, S.Joy

英国医師会

リーズ西部医療公団

ヨークシャー水道公団

北西ガス委員会

ヨークシャー電力委員会

ブリティッシュテレコム

このブックレットは核兵器の効果について米国政府の公式情報を使用している。

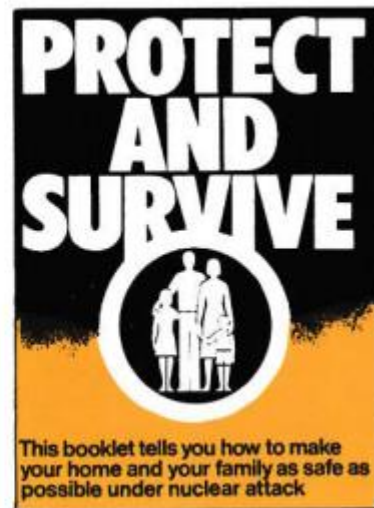
1983年5月 第2版

このブックレットはリーズ市議会の許諾なく複製してよい。

このブックレットの目的は何か？

当市が非核地帯宣言をしたことを知っているかもしれない。1982年、リーズ市は140の地方自治体とともに、政府の「ハードロック」民間防衛演習への参加を拒否した。政府は、核戦争に対応した民間防衛計画への地方自治体の参加を義務付ける可能性がある。「Protect and Survive」などの内務省の出版物は、少数の単純な用心で、大多数の人々が核戦争を生存可能だと示唆しているように見える。内

務省の別の出版物「核兵器」は、一部の科学者の見解では、爆弾によって引き起こされた死傷者と破壊を過小評価している。米国と英国の科学者は実際の効果について多くの客観的な研究を行ってきたが、これらは非常に異なる結果を示している。市議会は、リーズ市民に生存の本当の可能性を認識させるべきであるという深い責任を感じている。事実はこのブックレットに記載されている。



このブックレットの記載内容は？

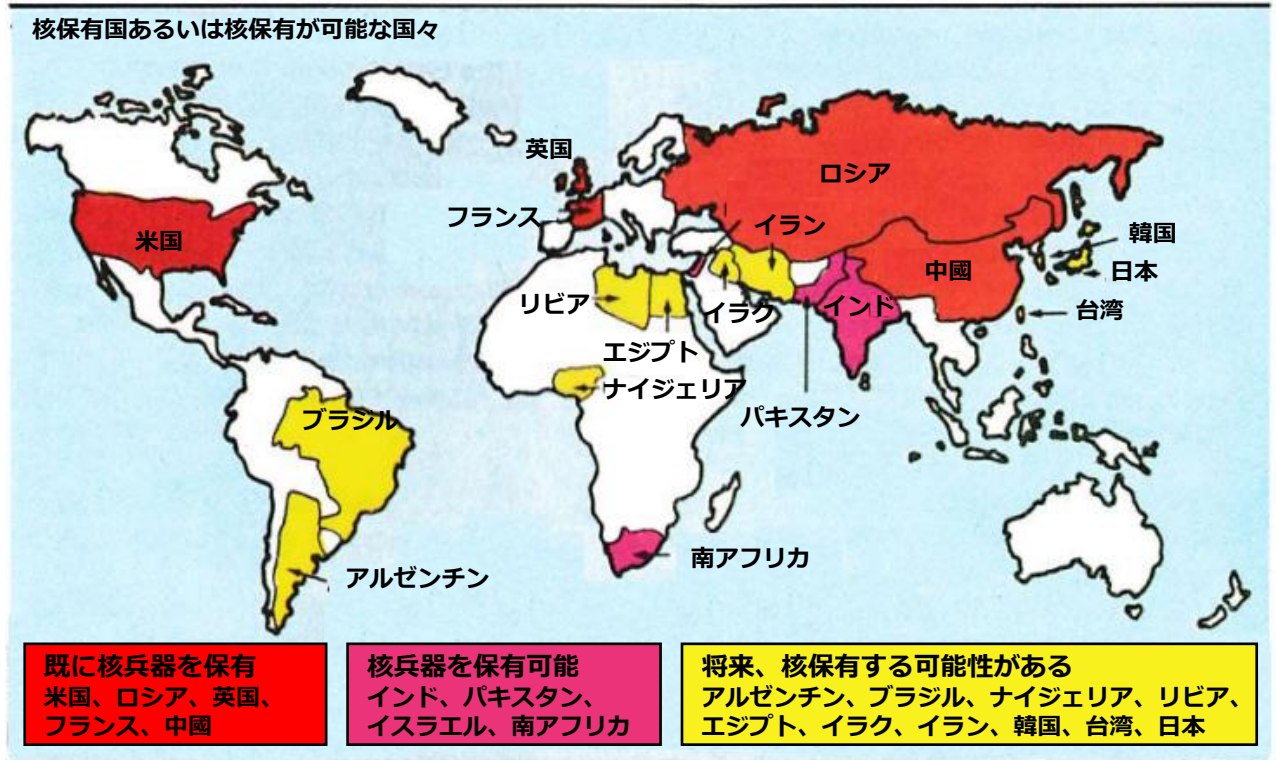
- p4-5: 核兵器の発展: 兵器の所有者、威力、種類。
- p6-7: 核戦争の始まり方: エスカレーション、海外紛争、偶発、警報。
- p8-9: 核爆発の影響: 爆発の種類。閃光、熱線、爆風、放射性降下物。
- p10-15: 1メガトン爆弾がリーズに行くこと: 市庁舎が爆撃された場合の生存の可能性。
- p16-17: 本当の核戦争の展望: イングランド北部の「核攻撃目標」とリーズに何が起こるか。
- p15-21: リーズの余波、医療、病気、水、食物、エネルギー、通信、政府。
- p22: 長期的な影響: 復旧の可能性、長期にわたる健康上の問題。地球に対する危険。
- p23-24: 民間防衛と核抑止力: どれほど効果的か。
- p25: 一般人が爆弾についてできること: あなたの決心への招待。
- p26-27: 核関連用語: 核の専門用語の説明。わからない用語に出会った場合は、これらのページを参照のこと。

核兵器の拡大

誰が核を保有しているのか？

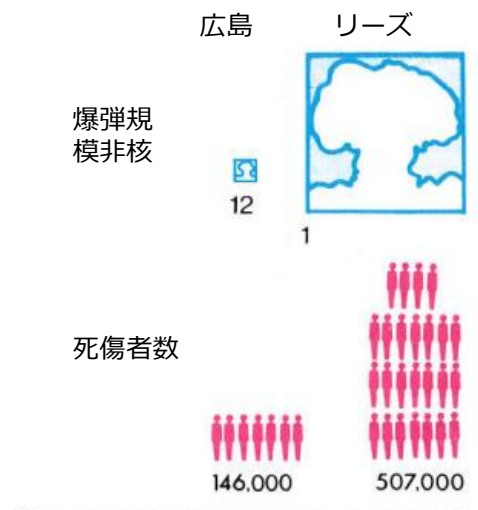
米国とソビエト連邦が大半の核兵器を保有している。1982年に、米国は9,500発の、ソビエト連邦は約8,500発の戦略核弾頭を保有していた。これらは陸上や海洋の潜水艦から発射、爆撃機から投下あるいは発射可能である。英国とフランスと中国は保有しており、イン

ドとイスラエルと南アフリカは保有している可能性がある。アルゼンチンとパキスタンに近い将来に保有する可能性がある。他も開発中である。テロリストも核爆弾を保有・搬送可能である。一般大衆は、これらの兵器が誰を狙っているのか、知らない。



核兵器はどれくらい強力なのか？

核兵器の強力な破壊力はキロトンあるいはメガトンで表現される。1キロトン(KT)はTNT爆薬1000トンに相当する。1メガトン(MT)はTNT百万トンに相当する。最大58メガトンまで核兵器の実験が行われている。第2次世界大戦で広島に投下された原爆は約12キロトンで、68,000人を死亡させ、76,000人を負傷させた。リーズが核攻撃の対象となった場合、使われる爆弾は1メガトンである可能性が高く、これは広島爆弾の70倍の威力である。そのような爆弾はエイヴオン河畔の50万人を死亡させるか、重傷をおわせるだろう。



核兵器の保有量はどれだけか？

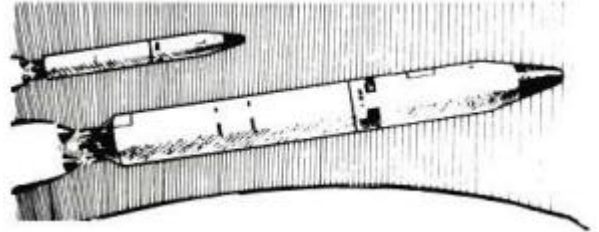
米国とロシアは、大量のメガトンの核兵器を保有しており、地球上の人間ひとりあたり4ト

ンのTNTに相当する。様々な核兵器が開発されているが、主たる3つのカテゴリに分類できる。

戦略兵器:

これらの長距離射程兵器である。地上発射ミサイル(ICBM)は射程7,200~15,000kmである。潜水艦発射兵器(SLBM)は射程2,400~7,200kmであが、米国の新型トライデントミサイルはソ連のSSN-8マークIIより射程が長い。米国最大のミサイルは9メガトンタイタンであり、射程は15,000kmである、一方、ソ連のSS018は10~50メガトンの弾頭を搭載し、射程は12,000kmである。

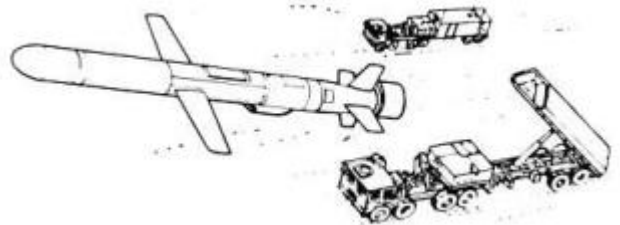
これらは互いに相手の都市を完全破壊できるので、抑止兵器と呼ばれることがある。



一部のミサイル(MIRV)は異なる複数の攻撃目標を正確に攻撃できる複数の弾頭を発射できる。その例の一つが、上述のトライデントC4である。破壊力の合計は8,000メガトンで、1970年から1980年に3倍になった。

ヨーロッパ戦略兵器:

「戦域核兵器」あるいは「中距離弾ミサイル(IRBM)」とも呼ばれる。これらは陸上と潜水艦と空中から発射可能で、約800~2,400kmである。これは射程1800kmの高精度なパーシングIIや、米国指揮下で欧州に配備されつつある射程2,250~2,400kmの巡航ミサイルなどもこれに入る。これらの新しい効果的な兵器は、欧州全域を核の破壊に対して脆弱にするものである。



これらはより小型の弾頭を搭載するが、精度が高く、戦略ミサイルがサイロにある間に破壊する、先制攻撃兵器として使える。

戦術核兵器:

これらは短距離射程核兵器（最大110km）で、戦場で使うことを意図している。これには核砲弾や小型核爆弾や中性子爆弾が含まれる。米国は約2,850の戦術兵器を保有している。これらはブリストルに直接脅威とはならないが、これらの兵器は、欧州における「限定核戦争」という岩塩を導入する可能性を高めるものである。



欧州にはもちろん英国も含まれる。

どのように核戦争が始まるのか？



通常戦争が核戦争にエスカレートするの か？

通常戦争が欧州で勃発し、NATO軍師団が圧倒されれば、NATOの「柔軟反応戦略」にしたがって、戦術核兵器が使われる可能性がある。前述の結果としてのカオスと破壊により、通信が崩壊し、紛争が急速にエスカレートする可能性がある。このエスカレートが西欧での全面核戦争につながる可能性がある。英国は主たる攻撃目標となるだろう。米国が大陸間弾道ミサイルを発射しようが、停戦に合意しようが、英国にとっては遅すぎるだろう。

「この惑星上の我々の未来が、
核の絶命に至るのかは、たった
一つの要素に委ねられている、
人類は善悪判断を完全に転換し
なければならない。」

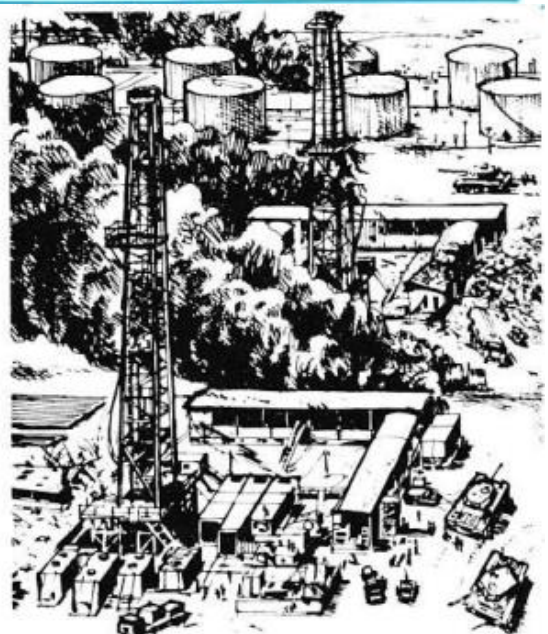
教皇ヨハネパウロ2世 1981/2/25

「我々は欧州で第1次世界大戦
を戦い、欧州で第2次世界大戦
を戦った。諸君らが望むなら、
我々は欧州で第3次世界大戦を
戦うだろう。」

元米国戦略立案者
G ラロック提督

海外の戦争の結果、起きるのか？

西側の石油供給が、産油国の1つで革命蜂起によって脅かされていると想像してみよう。米国政府は、ロシアが革命の背後にいると信じて、NATOの迅速展開部隊を派遣する可能性がある。ロシアが対抗して、その地域への自軍を派遣するかもしれない。革命が激化した場合、NATOあるいはロシアが介入する可能性がある。ほぼ必然的に反対側も対抗するだろう。ロシアの対応は、欧州のNATO供給ポイントを攻撃することである。中東や欧州で核兵器が最初に使用されるか否かにかかわらず、紛争は「限定的な」欧州核戦争にエスカレートする可能性がある。



偶発核戦争は起こるのか？

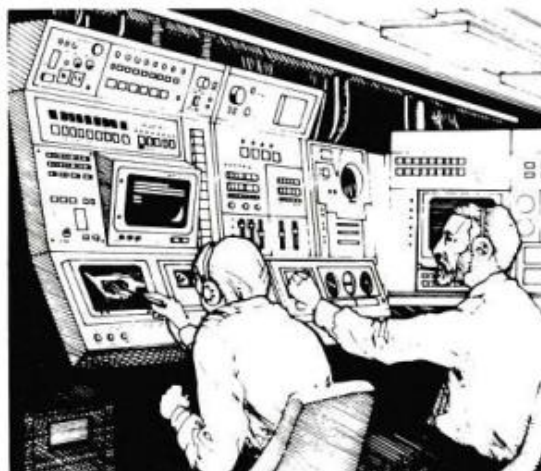
米国はパーシングIIと巡航ミサイルを押収に配備している。パーシングIIはロシア領内の攻撃目標に5～6分で到達できる。ロシアは自分たちのミサイルがサイロ内で破壊されないように「警報即発射」を採用するという恫喝で対抗している。事故やコンピュータ誤動作により、ロシアが攻撃を受けたと信じて、自分たちのミサイルを発射するかもしれない。1980年に米国のコンピュータは、実際には存在しない3発の核攻撃を探知し、発射シーケンスに入った。現代テクノロジーの複雑さにより、偶発核戦争の可能性は高まっている。

「私は本心から軍人として繰り返し言っている。誰もが思いもよらない結果をもたらすエスカレーションに至らない、核兵器使用など考えられない。」

ルイス・マウントバッテン卿
1979年

「どの独裁者か狂人か軍事政権が次にボタンに指を置くのか誰も知らない。あるいは目標がどこなのかも。」

デイリーミラー 1983/1/26



「我々の軍事力を守り、我々の目的を達成するために必要と感じたらいつでも、核兵器を使用するというのが我々の政策であろう。」

R マクナマラ米国国防長官
1961年

警報はどの程度、出せるのか？

これは核戦争が勃発する状況による。数か月にわたる国際危機の長い期間後に核戦争が起きるかもしれない。あるいは突然の機器から急速に核戦争にエスカレートするかもしれない。1982年10～11月に計画された政府のハードロック民間防衛演習では、英国への核ミサイル発射の前に、10日間の外交危機と、それに続く5日間の通常戦争を想定している。政府の内務省の計画では、最短2日前警報を想定している。ひとたびミサイルが発射されれば、5～6分前の警報しか出せないかもしれない。

核爆発の影響

異なる種類の爆発があるか？

核爆弾による被害は、規模と威力のみならず、爆発の種類と気象、特に風力と風向に影響される。爆発には3種類ある。

地上爆発:

爆弾は地上もしくは地上近くで爆発し、致命的な放射能を帯びた土の縁で囲まれた、巨大なクレーターを形成する。クレーターから瓦礫がキノコ雲に巻き上げられる。それは放射化される。その後、風力と風向に従い、地上へと降ってくる。これは高度に放射能を帯びた塵、放射性降下物を作り出し、非常に広いエリアの人々を殺す可能性がある。

空中爆発:

爆弾は空中で爆発する。火球は地面に触れない。巻き上げられる瓦礫はほとんどない。爆弾から放出されるエネルギーは熱と光であり、爆風と衝撃波がより広範囲に及ぶ。これらは同規模の爆弾の地上爆発より約50%広い。核爆発により電磁パルスが生成され、広範囲に通信システムを破壊する。

水中爆発:

爆弾は海洋や湖で爆発し、水を蒸発させる。その後、水は地上に、強力に放射能を帯びた雨として降ってくる。核爆雷はこの効果を持つ。

核爆発で何が起きるのか？

市庁舎を1メガトンの水爆の地上爆発が襲った1分後に、**リースに残存するものはほとんどないだろう**。爆発直後に、眩い閃光と致死放射線が放たれる。3秒以内に、直径2100メートルの高温の火球が形成される。よく知られ

たキノコ雲が空に立ち昇る。爆風が超音速の最大時速320kmで都市全体に広がっていく。爆風と熱線は最初に多くの死傷者をうみだすが、より長期にわたり放射線で多くの人々が死傷する。被害と死傷者は以下により生じる。



放射線と閃光:

最初の核放射線で、から2.4km圏内の屋外の人々を死亡させる。たとえば、**ホルベックやハイドパークやチャペルトاون**など。閃光は、**イードンやイーストケズウィックやガーフォースやモーリーやパズ**など最大9.6kmまでの人々にも影響する。これらの人々が直接に爆発を見れば失明する可能性がある。

熱線:

火球の温度は中心部では数百万度に到達し、周辺部では数千度になる。熱線は**ホースフォース**や**アルウッドリー**や**ウィンモア**や**ロスウェル**、**ミドルトン**など



市庁舎から最大8.4km圏内の屋外や窓辺の人々に致命的火傷をもたらす。市庁舎に近い場所の屋外にいる人々は、確実に燃える。

ロードンや**スカークロフト**や**スウィリントン**や**アーズリー**や**カルヴァリー**など、市庁舎から最大10.4km圏内では、屋外にいる人々は重度の火傷になる。**ギズリー**や**ヘアウッド**や**キップボックス**など12.8km圏内の人々は第1度の火傷になる可能性がある。8kmまでの見渡せる範囲では、屋内の家具やカーテンなどに着火して、広域火災が発生する。屋外火災が、森林やガソリンスタンドやガス管爆発などで起きる。火災が集まって、火炎旋風が起きて、燃えるものが尽きるまで続く。

爆風:

爆発時に屋内で放射線や閃光や熱線から合理的に防護されている人々は、駆け抜けていく衝撃波として爆風の恐ろしい力を体験することになる。大半は、まわりの崩壊した建物に衝突したり、物体に投げつけられたり、瓦礫に衝突されたり、特に飛散するガラスにあたってして死傷する。

都心部や郊外の大半は爆風で破壊される。

イードンや**バージー**や**ガーフォース**などまで、窓が叩き割られ、屋根が藁が吹き飛ばされる。



これにより放射性降下物が屋内に大量に入り込むことになる。

放射性降下物:

放射性降下物の大半は数時間以内に降ってくる。80~160kmまでの人々が死亡する可能性がある。放射性降下物が大量に降り積もった場所では、2週間以上致命的脅威状態になる。大半の普通の住宅では、特に爆風被害を受けていた場合、放射性降下物に対して限定的な防護にしかない。放射線は体細胞を破壊し、吐気、嘔吐、下痢、脱毛、貧血、不妊症、白血病および癌を引き起こす可能性がある。

体の抵抗力を弱め、感染症や病気になりやすくなる。人々は普通は、どれだけ放射線被曝したか知ることはない。100ラド以下の低線量被曝でも、病気や不妊や長期癌や遺伝病などを引き起こす場合がある。1~2日で400ラド以上被曝すると、重い病気になるか、50%の確率で死亡する。600ラド以上の被曝では、生存はほとんど望めない。幼児や老人や病人や怪我人は、放射線障害により脆弱である。

1メガトンの爆弾でリーズはどうなるのか

何故リーズが攻撃されるのか？

軍事目標と経済目標がともに攻撃される可能性がある。核戦争の目的は、敵の戦闘力を破壊するのみならず、即時復旧を阻止することにある。政府の民間防衛演習にはリーズへの核攻撃も含まれている。周辺には、空港や兵器廠やメンウィズヒルの米軍基地がある。経済と行政の中枢として都心部に爆弾を投下さ

れるかもしれない。

市庁舎での1メガトン地上爆発の例を使って、核戦争でリーズに何が起きるか簡単に説明する。快晴で、多くの人々がまだ自宅にいる朝8時に、警報なしに爆弾が投下されると仮定する。



内円周はクレーター領域を
外円周は縁の放射性の土を示す

市庁舎に何が起きるのか？

爆弾が市庁舎の地上近くで爆発したとしよう。総合診療所、シビックシアター、セントアン大聖堂、パークスクエア、ウェストゲートは、深さ72メートル、幅420メートルの巨大なクレーターになる。クレーターの領域では、地下サービスのネットワーク（ガス、電気、水道、下水道、通信）が破壊される。致命的な

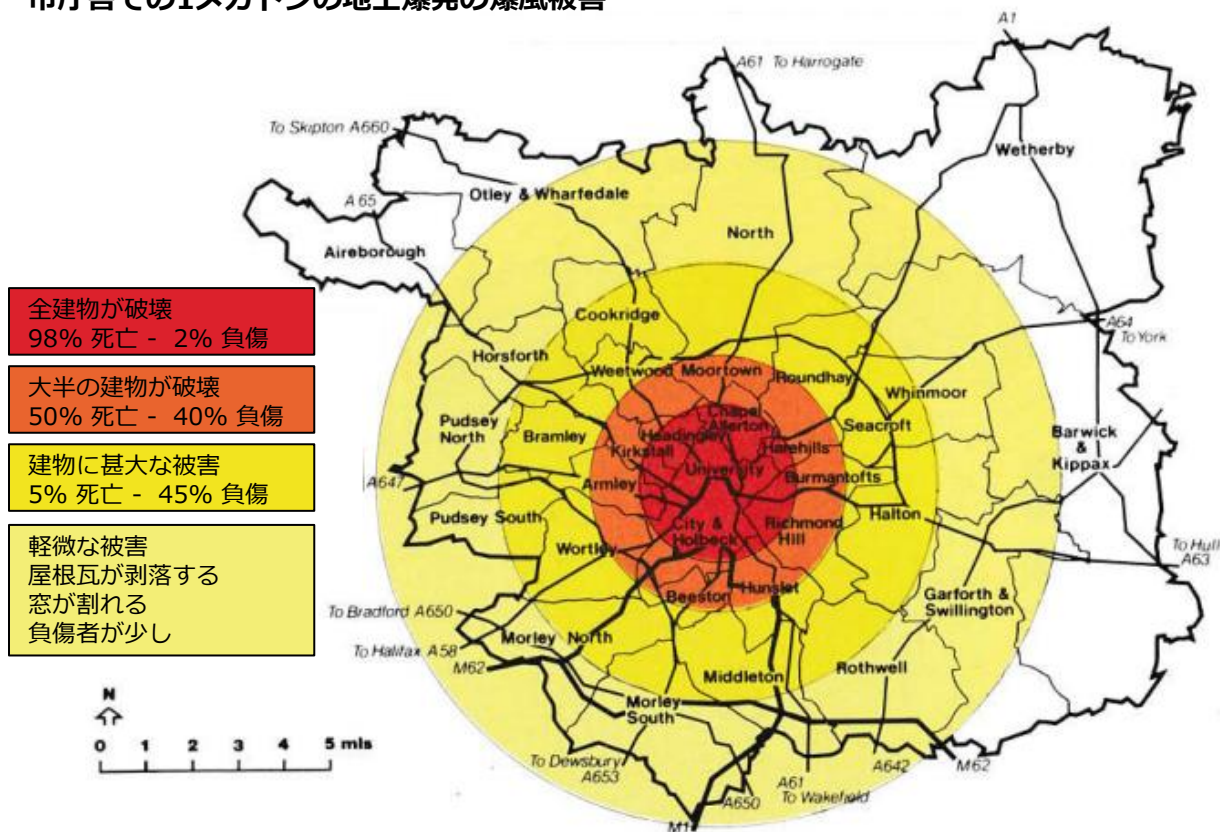
放射能で汚染された土壌の縁が、クレーターの周りに投げ上げられ、リーズ駅と大学の間の都心部に残っていたものを覆う。**エア川、ウッドハウスムア、クアトリーヒルの間に認識できるものは何もない。**これらはすべて数秒以内に発生する。

市庁舎は破壊されるのか？

市庁舎から2.8km圏内のすべてが、爆弾の爆風で破壊される。バーリー、ハイドパーク、ウッドハウス、チャペルタウン、ヘアヒルズ、シープスカー、バーマントフツ、クロスグリーン、ホルベック、ニューウォートリーのほぼ全体が完全に破壊される。アーンリー、ヘディングリー、チャペルアラートン、リッ

チモンドヒル、ハンスレットの一部が破壊される。セントジェームズ病院、チャペルアラートン病院、リーズ消防署、2つの主要な警察署が爆風で被害を受ける。この円内は実質的には全員死亡し、甚大な破壊を被り、爆風だけで数秒で、110,000人が死亡するか、死に瀕する。

市庁舎での1メガトンの地上爆発の爆風被害



郊外は安全か？

市庁舎から4.5kmまでの距離にある、大半の建物が破壊されるか、修復不可能な被害を受ける。道路は瓦礫で塞がれる。大半の自動車やバスやトロリーは破壊されるだろう。瞬間的に火災が始まり、全域が火災ゾーンになる。カークストール、ヘディングリー、ウェストパーク、ウィートウッド、チャペル、アラートン、ムーアタウン、グレドハウ、オーク

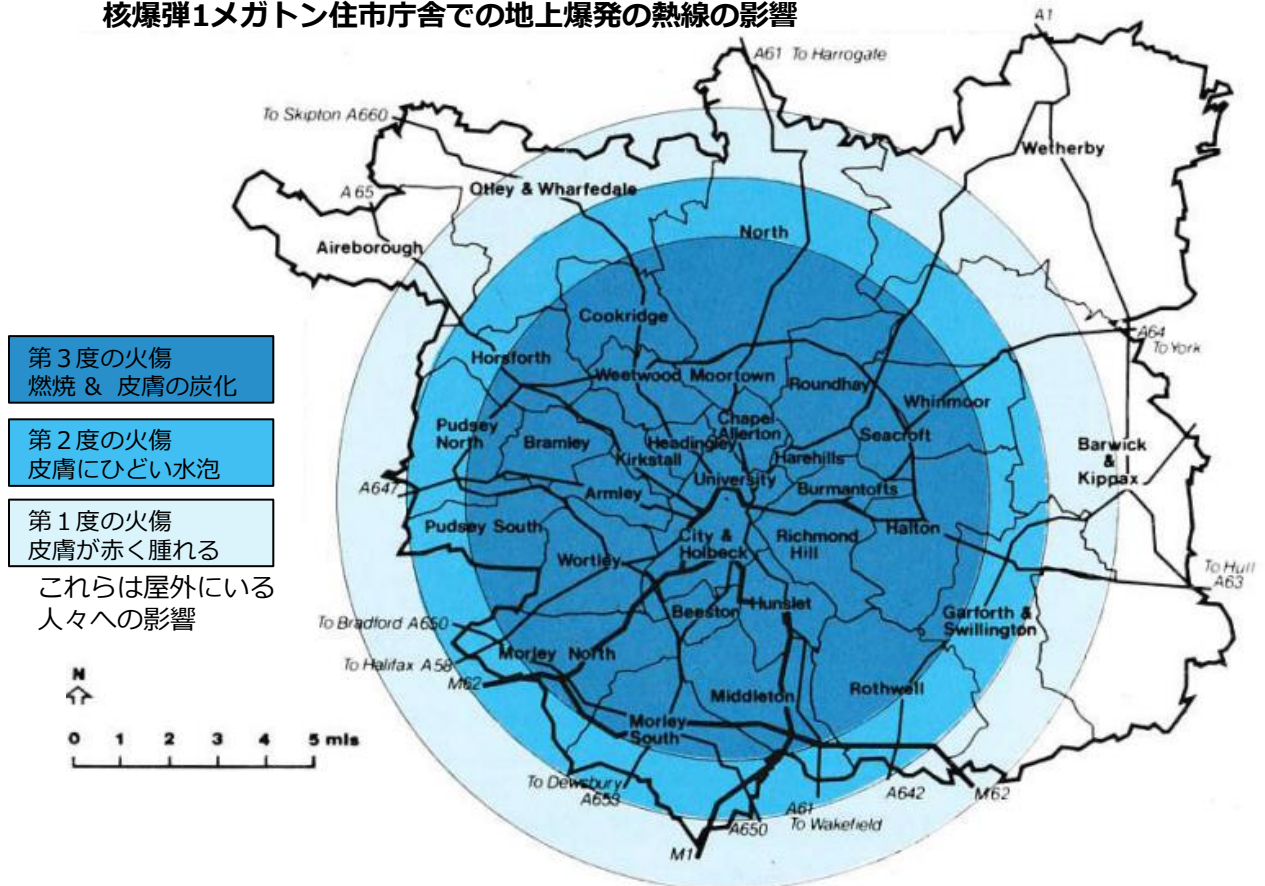
ウッド、ギブトン、オズモンドソープ、ハンスレット、ビーストン、ウォートレー、アームリーで残存しているものはほとんどないだろう。この地域の半数の住民が死亡し、生存者の5人に4人が重傷を負う。約76,000人が死亡し、61,000人が負傷する。生存者の最大半数が火傷で死亡し、それ以外も遅かれ早かれ、放射線被曝で死亡するだろう。

周辺部はどうか？

市庁舎から最大7.7km圏内では甚大な被害から相当な被害が生じる。建物は窓や枠や内壁が失われる。上階の中にあるものが吹き飛ばされ、壁にひび割れが入る。瓦礫で大半の道路は通れなくなる。火災がこの圏内に広がり、少なくとも半数の建物が破壊される。屋外や窓際にいる人々は重い火傷になる。ブラントリー、ホークスワース、ホースフォース、クックリッジ、ホルトパーク、アデル、アルウッドリー、シャッドウェル、ラウンドヘイ、

シークロフト、ウィンモア、クロスゲート、ハルトン、ロスウェル、ミドルトン、モーリー、ギルダーサム、パドシーの一部が、この被害を受ける。市庁舎から遠く離れていても、約半数の人々、13,000人が死亡し、114,000人が負傷する。イードン、ヘアウッド、バージー、ガーフォース、ドリグリントン、カーバリーでは、窓が吹き飛ばされ、屋根瓦が剥落する。これにより、より大量の放射性降下物が建物に入る可能性が高まる。

核爆弾1メガトン住市庁舎での地上爆発の熱線の影響



放射性降下物の影響を受けるのか？

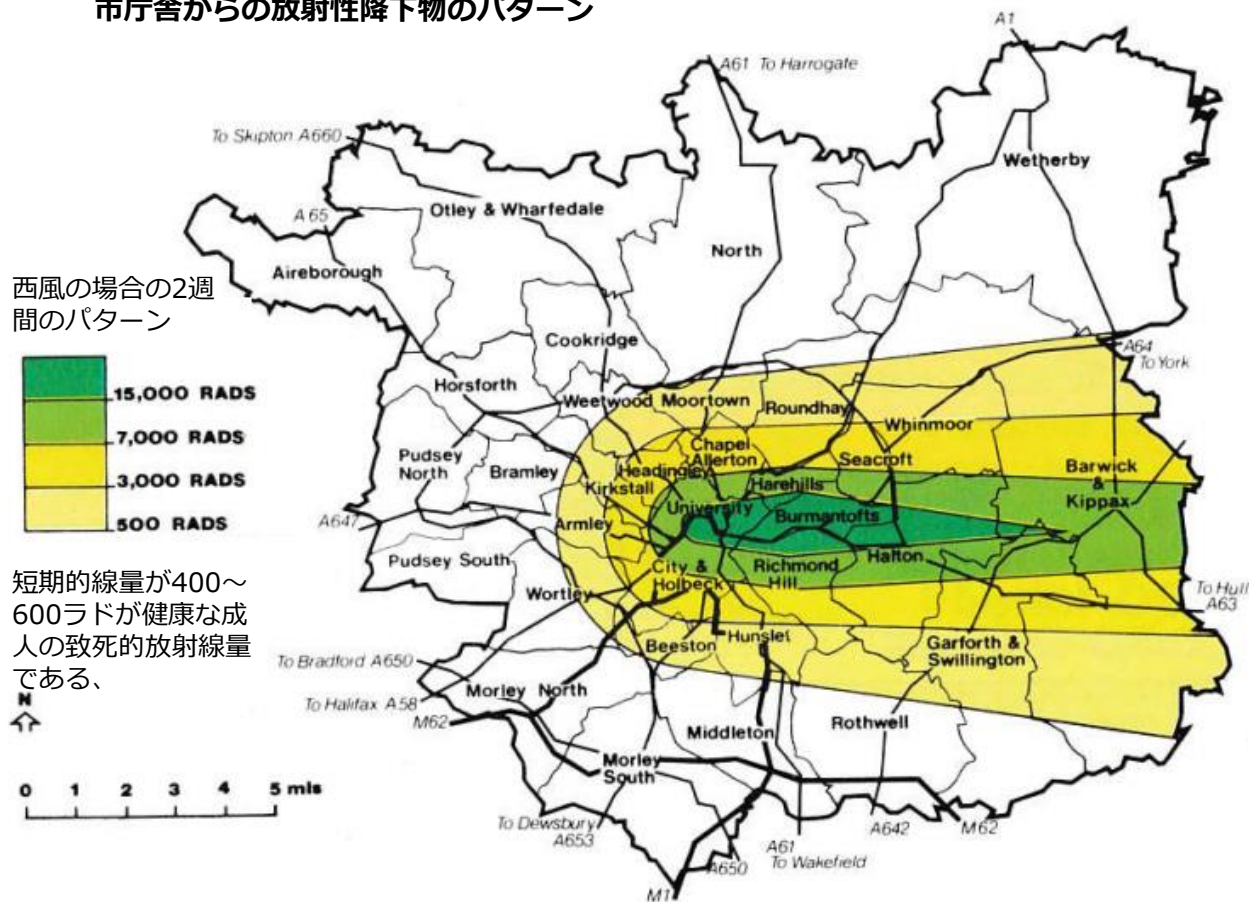
天候の変化と土地の配置のため、放射性降下物の正確なパターンを予測することは非常に困難である。通常、爆弾の爆発から風下に幅10km、長さ40kmのブルームの形状となる。

リーズで7m/sの卓越風すなわち西風が吹いていると仮定すると最初の2日間で都心部と郊外（市庁舎から最大4.5kmの範囲）で致死量の放射性降下物が降り積もることになる。

そして、広い幅で、ソーナーからオールトンまで、最遠でアバーフォードとレッドシャムを越える。リーズ東部の周辺の町や村のほとんどは、致死量の放射線の4倍から30倍の線量となる。通常の家屋は放射線に対して現艇的

な防護しか得られないので、最初の爆風の生存者の大半はこの地域で致死量の放射線被曝するリスクがある。その数は約245,000人で、初期の爆風により死亡者数を上回る。

市庁舎からの放射性降下物のパターン



死傷者数は全体でどうなるのか？

リーズ市の人口713,000人のうち半数が死傷する。196,000人(27%が死亡し、176,000人(25%)が爆風で負傷する。さらに多くの人々が熱線や火災で致命的火傷になる。2日以内に、放射性降下物からの放射線で、既に爆風で負傷している110,000人と、爆風の被害を受けなかった135,000人が死亡する可能性がある。合計で245,000人(34%)が、放射性降下物からの放射線で死亡する可能性がある。したがって、全体では、たった一発の核爆弾で、リーズ市の50万人を超える人々(73%)が

死傷する。25万人が生存できる可能性がある。もし爆弾がマイルに投下されれば、都心部は買い物客やオフィスワーカーが多くいて、工業地域には数万人が働いている時間帯なので、より多くの人々が死傷することになる。地上に雪が積もっていたり、厚い雲に覆われていると、熱線はより遠いところまで到達し、より多くの人々を死亡させるだろう。その後も、人々は負傷や病気や渇きや飢えで死亡するだろう。

1メガトンの核爆弾の市庁舎での地上爆発の影響

考えられる合計死傷者数
713,000人のリーズ市人口のうち
死傷するのは507,000人

爆風の被害

全建物が破壊
108,000 死亡
2,000 負傷

大半の建物が破壊
76,000 死亡
61,000 負傷

建物に甚大な被害
12,000 死亡
113,000 負傷

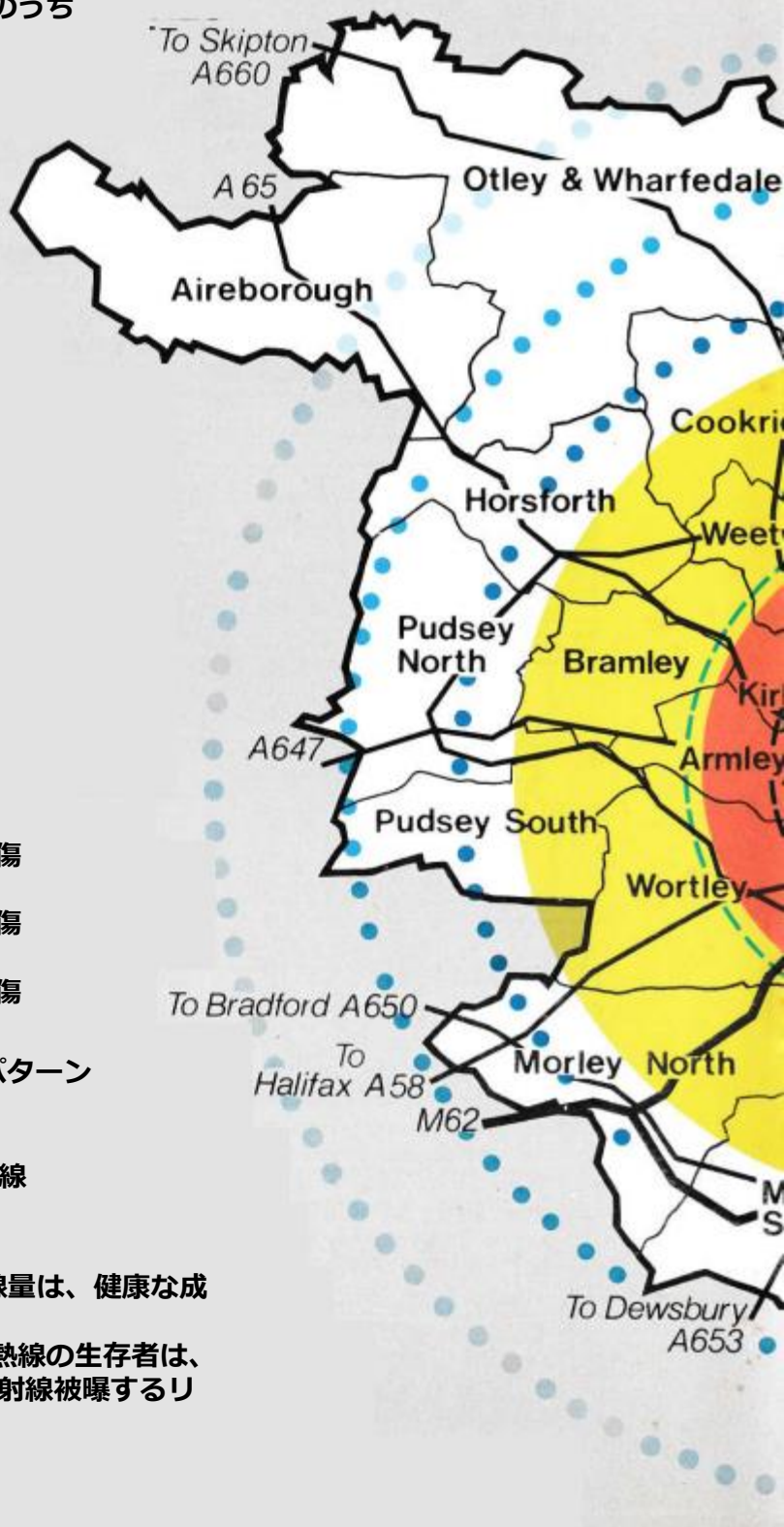
屋外にいる人々への 熱線の影響

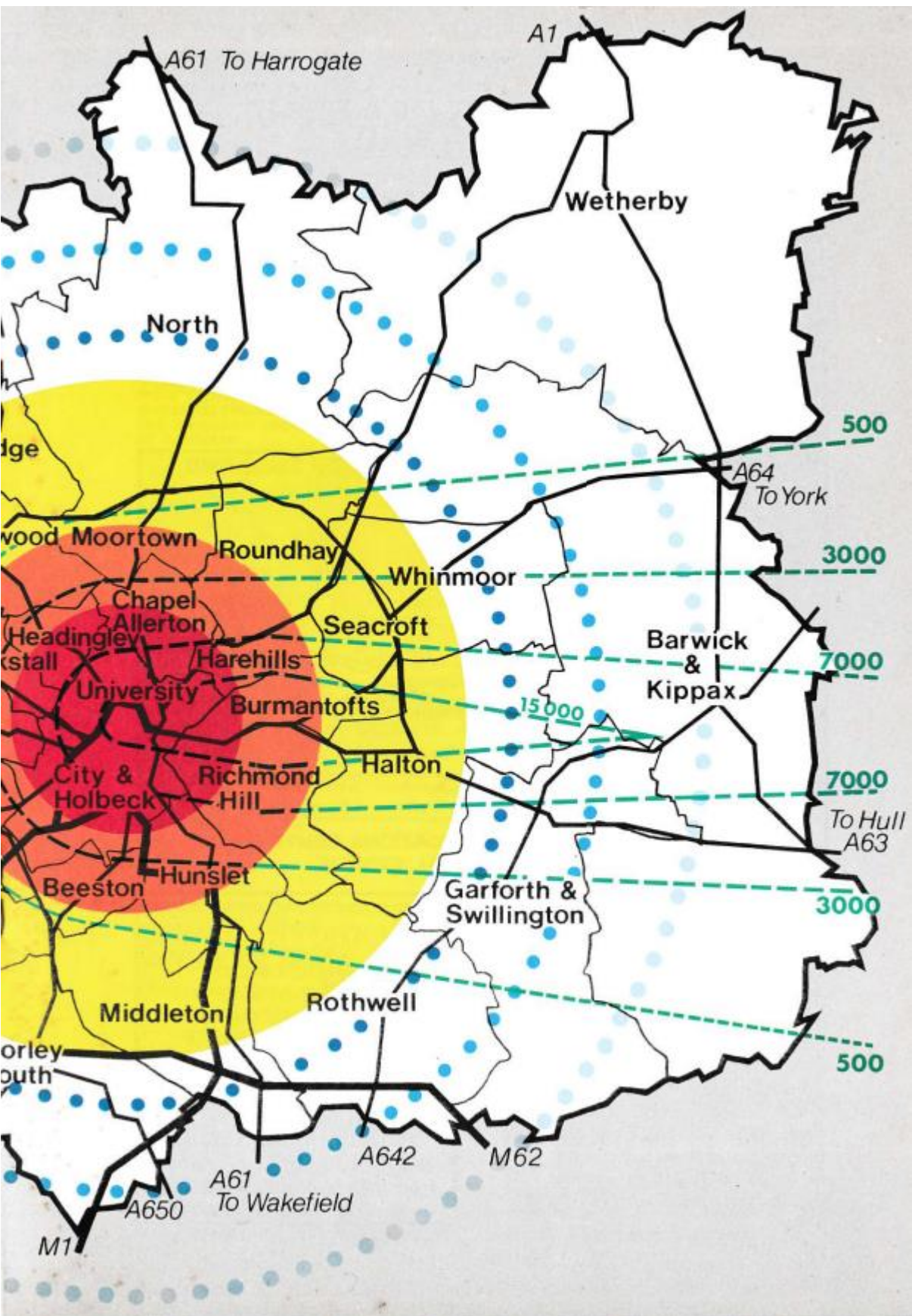
- ● ● 第3度、致命的火傷
- ● ● 第2度、重度の火傷
- ● ● 第3度、軽度の火傷

西風のときの放射性降下物パターン

- 放射性降下物等高線

短期間に400～600ラドの線量は、健康な成人には致命的被曝となる。
245,000人の最初の爆風と熱線の生存者は、
爆発後2日間は、致死量の放射線被曝するリスクがある。





実際の核戦争の予測

何が起きうるのか？

これまで、1発の爆弾によってリーズに起きることを見てきた。実際の核戦争の予測はもっと恐ろしい。**もちろん、リーズだけが攻撃を受けるというのは、ありそうにない。**核戦争の目的は破壊のみならず、即時復旧を阻止することにある。政府自身の英国への攻撃規模予測では、125発の核兵器、合計威力200メ

ガトンである。政府は、分散配備後の地上発射巡航ミサイルをすべて破壊するには、1000メガトンが必要だと述べている。したがって、実際の核戦争では、英国の大半が破壊され、リーズが外の都市から救援を受けられる可能性はほとんどない。



攻撃を最も受ける可能性の高い目標は？

軍事目標はまず攻撃される可能性が高い。これらには、ミサイル基地や空軍基地や通信施設や哨戒施設や軍需工場などの、英国と米国とNATOの軍事拠点がある。これに続いて、戦後の復旧を妨げるべく、都市や発電所など、工業と経済の中心地が攻撃を受けるだろう。

「英国の人口密度は1平方kmあたり229人である。英国以上に小さな土地に、多くの人口と攻撃目標が密集している国はない。

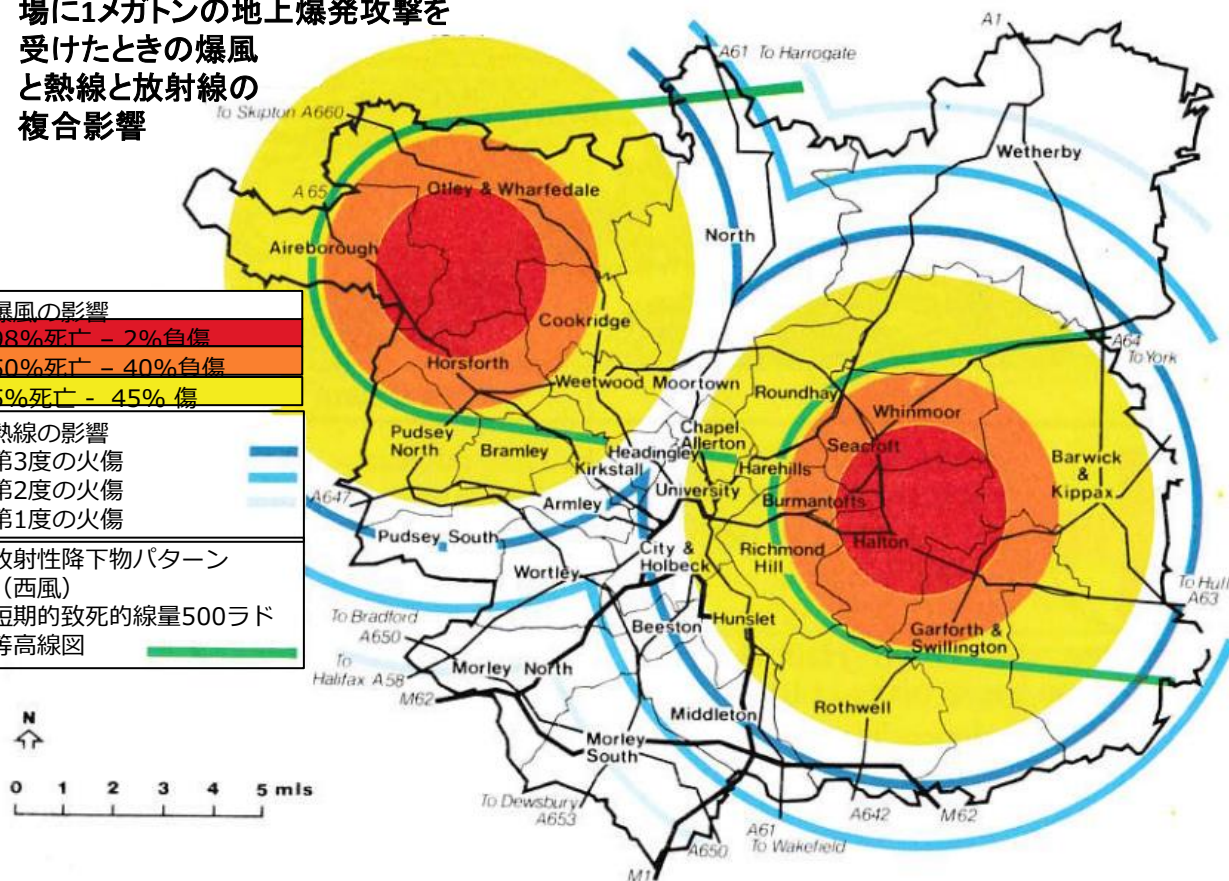
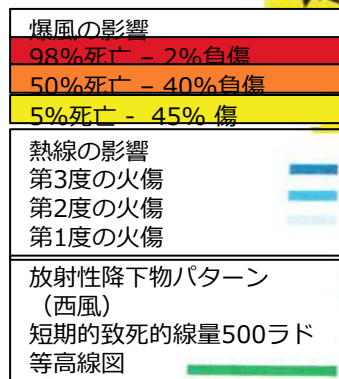
核戦争に関する英国医師会
報告書 1983

リーズはどのように影響を受けるのか？

市内には潜在的軍事攻撃目標が2つある。都心部の北西には**空港**があり、東には**バーンボウ**には**軍需工場**がある。以下の地図は、2つの攻撃目標に対する核攻撃の影響を示したものである。さらに、**オトリー**の北10kmにある、**メンウィズヒル**の米国の通信施設も確実に攻

撃を受けるだろう。その他の近接の攻撃目標には、ブラッドフォードとハダースフィールドがある。ロシアの1発のミサイル(SS-18)は複数弾頭(MIRV)を搭載し、正確にこれらの全目標を狙える。

リーズ・ブラッドフォード空港とバーンボウ軍需工場に1メガトンの地上爆発攻撃を受けたときの爆風と熱線と放射線の複合影響



リーズで実際の核戦争を生きのびられる者はいるか？

大半の市民にとって生命の最大の脅威は、最初の爆風ではなく、放射性降下物である。空港とバーンボウはいずれも市外縁にあり、市庁舎に1発の攻撃を受けるよりも、人的被害は小さいだろう。同様に、2発の爆弾からの放射性降下物は、市外の田舎に流れていくので、その被害も小さいだろう。**しかしながら、生存者にとって本当の危険は、ウェストヨークシャーやランカシャーや英国のその他の地域**

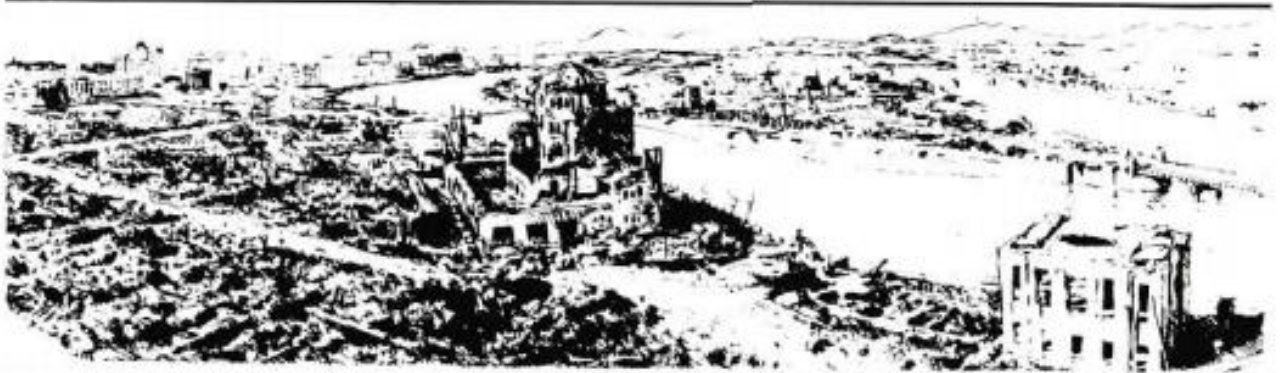
に投下された爆弾からの放射性降下物だろう。放射性降下物は風で数百km運ばれることもある。卓越風である西風のときにランカシャーとウェストヨークシャーが核攻撃を受けたとすると、リーズ市民への影響は致命的である。その他の生命への重大な脅威は、爆弾投下後の状況である。これについてはこの後に述べる。

リーズの余波

生存者にどのような救援が為されるのか？

リーズが1発の核爆弾の攻撃を受けたとしたら、25万人程度かそれ以上が生存するだろうか。その多くは負傷しており、治療を必要とするだろう。そして全員が、水や食料や避難所や、暖房や調理や照明のための電力を必要とするだろう。これらの調達には、何らかの形態の政府と通信が必要となるだろう。政府は公共

サービスの戦時非常計画を準備している。政府は「計画の基本的に不可欠な部分は48時間以内に実施可能でなければならない」と述べている。リーズに1発の爆弾が投下された結果、あるいは全面的な核戦争の結果として、生存者と公共サービスの両方が直面する問題を以下に示す。



原爆投下後の広島



負傷者の治療はどうなるのか？

警報なく市庁舎に直撃を受けた場合、最初の数日で、放射線障害で死亡する人々の数に応じて、66,000～176,000人が負傷する。治療を受けられる可能性はほとんどない。3つの主要な病院である総合病院、セントジェームズ病院、チャペルアアートンは爆風で完全に破壊される。シークロフト病院は深刻な被害を受け、オトリーの小規模なワーフデール病院のみが機能しているだろう。負傷者の多くは瓦礫の中に閉じ込められる可能性があるが、救助や治療の可能性は低い。道路は瓦礫で塞がれ、爆弾が爆発した後の少なくとも2週間は高い放射線レベルであるため、大規模な救助活動が

阻まれる。実際の核戦争では、政府の医療サービス計画により、負傷者は、治療後も生存不可能、治療不要で生存可能、治療後に生存可能という3つのカテゴリーに分類されることになる。最後の分類のみが治療を受けることになる。4つの最も重要な医学的問題は、火傷、放射線病、複数の負傷、および極度の心理的ショックである。平時でも、全国で一度に治療できる急性火傷の症例は約100件のみである。放射線障害の治療には輸血が必要であり、血液が不足すると効果的な治療を行うことは事実上不可能になる。実際、政府の医療サービス計画では、放射線障害のみの患者は病院に入院するべきではないと具体的に述べている。入院施設、医療スタッフ、麻酔薬、薬物が不足しているため、複数の怪我や骨折をただちに治療することは不可能である。



衛生と病気についてはどうか？

ノストロップにあるリーズの主な下水システムは大部分が多くのポンプ施設とともに破壊されるだろう。下水道は、特に市庁舎の近くでは、破損したり詰まったりする可能性がある。数十万の腐敗しつつある人間と動物の死

体が瓦礫の下や建物の中に埋もれている。放射線や装備の欠如や人員不足のために、それらを迅速に除去するのは不可能である。

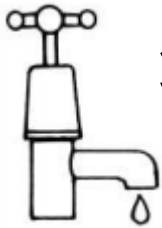
ネズミと昆虫は、人間よりも放射線に対してはるかに抵抗力がある。彼らは瓦礫の中で繁殖し、病気を広めるだろう。これらの状況では、疫病や感染症の大きなリスクがある。政府の計画はこれを認めている。英国医学会によると、腸チフス、コレラ、赤痢、結核はすべて発生する可能性が高い。

「したがって、都市に投下された1つの爆弾による犠牲者に関する負担が、この国の医療施設を完全に圧倒することは明らかである。」

核戦争に関する英国医師会
報告書 1983

「多くの死傷者が致命的な放射性降下物の領域にいるため、ほとんどの医師や他の医療専門家は、彼ら自身が無傷であっても救援できない。」

核戦争に関する英国医師会
報告書 1983



水道供給についてはどうか？

リーズへの水道供給の大半は、米軍基地近くの**メンウィズヒル**の貯水池から来ている。放射性降下物は貯水池に入りうるが、その大半は底に沈み、給水に入る可能性はほとんどない。市庁舎への直撃によって形成されたクレーターは、水道本管を切断する。これにより、一部の地域では洪水が発生し、他の地域では水圧が低下する可能性がある。爆風によりヘディングリー浄水場はほぼ破壊される。水を汲み上げる電力があるとは考えにくい。その結果、市のほとんどの地域には水道供給が停止する。政府の計画では、水道の給水が

長期にわたって途絶えることを認めている。

多くの生存者が放射線障害や未治療の怪我や病気を患っている。結果として、内務省が示唆するよりもはるかに多くの備蓄水が必要となる（攻撃後の最初の14日間に使用するのは、1人1日あたり1リットル）。渇きのために人々を避難所を出て、放射線障害の危険に直面するかもしれない。消防局は、利用可能な水を分配する責任を負う。リーズでは、カークストールロードの消防本署は破壊されているだろう。いずれにせよ、爆発による被害で道路を通行できなく成っているだろう。放射線およびその他の損傷により、攻撃後最大4週間、給水を開始できなくなる場合がある。多くの人が喉の渇きを感じたり、喉の渇きで死んだりして、長期的な危険に直面する可能性さえある。



食料はあるか？

警報がなければ、最初の2週間分の十分な食料を用意できる人はほとんどいない。これは屋外の放射線レベルが危険なほど高い時期である。いずれにせよ、市庁舎に直撃すると、都心部とインナーシティのすべての店舗と、大半の郊外のショッピングセンターが破壊される。多くの食品倉庫と加工工場も破壊される。

警報があったとしても、内務省は、すべての

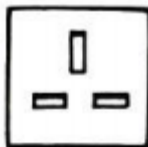
人が14日間分の食料を得ることができるとは限らないと認めている。食料不足、パニック買い、備蓄品を入手するための警告が不十分である可能性がある。地方自治体に非常時の住民の消費のための備蓄食料があるかもしれない。しかし、車両や道路への爆風被害、燃料不足、高放射線レベルのため、これらが配布される可能性は低い。爆発により損傷を受けた食料備蓄は、放射性降下物や細菌によって汚染される可能性がある。大半の港湾が破壊される可能性があり、食料をほとんど輸入できない。農場は汚染されている可能背がある。農業に利用できる燃料や肥料がないかもしれない。政府は食糧が不足することを認めている。多くの人々が飢える。生存者たちは飢餓に直面する可能性が高い。

「限定核戦争が限定されたままである可能性はまったくないと思う」

H. ブラウン米国国防長官
1977/1/11

「これらの事柄の1つが怒りで最初に発射されると、すべてが失われる。戦っている国々は、物事を元に戻せない。」

レオニード・ブレジネフ 1978



エネルギー供給はどうなるか？

市庁舎に直撃を受けると、クレーターにより都市全体のガスと電気の供給が寸断される。核爆発による電磁パルスで、電力供給システムが破壊される可能性がある。変電所は爆風によって押しつぶされるか、大部分が破壊される。スケルトングランジ発電所はほぼ破壊される。主たるガス管理センターが破壊され、

ガス管の損傷により圧力が失われ、ガス供給が切断される。電気とガスの両方の供給は、国家ベースで組織されている。核戦争の場合、発電所とガスパイプラインはおそらく破壊されるだろう。したがって、調理、暖房、照明のためのエネルギー供給は失われる。政府自身がこれを認めている。これは、大半の住宅の破壊とともに、負傷者の状態を悪化させる。特に若い者や高齢者では、低体温症で死亡することさえある。



通信はどうか？

市庁舎とリーズ駅に直撃を受けると、主要なメインバス停及び、市中心部の約5kmの範囲内の大半の車両は破壊される。エア河に架かる市中心部の橋梁は崩壊する。道路や街路は最大8km圏内まで、瓦礫で通れなくなる。食

料や水を探したり、親族や友人を探すには、大半の人々は歩くほかない。燃料は非常に限定的である。

政府は、核戦争の脅威がある場合、非常事態の処理に不可欠な回線に電話サービスを制限することを計画している。いずれにせよ、市の電話交換機の大部分は爆風によって破壊されるか、電磁パルスによって動作しなくなる。無線通信は停止する。9つの交換所のみが機能する。市の電話回線25万のうち機能させられるのは3万である。制限され、輻輳するだろう。

「私大規模な破壊と結びついた核攻撃の標的に関する不確実性...したがって、医療サービス、食糧供給、あらゆる核の非常事態の計画を立てようとする試みはすべて虚構と化す。」

核戦争に関する英国医師会
報告書 1983

「政府の民間防衛計画は絶望的に非現実的である。核災厄の結果に対して計画が可能であるというまさにその考えは間違っている」：

ガーディアン社説 1983/3/4



誰が責任を負うのか？

全国に核攻撃が発生した場合、中央政府は存在せず、地方政府体制が存在することになる。これらは、警察や軍に対して、非常時権力を使用して公の秩序を維持する責任を負う。リーズでは（生き残っていれば）ローンズウッドのバンカーが地域本部として使われる。内務省によれば、主な目的は、最も深刻な打撃を受けている短期的支援ではなく、長期的な生存のために資源の保全を目指すことである。平時では受け入れられない行動が当たり前になるかもしれない。平時において通常として受け入れられた人権と自由は消滅するだ

ろう。わが国の他の地域の人々も皆、我々と同様にひどい状態にあると思われるので、他地域からリーズへの救援はないだろう。

「両陣営とも軍事的不利益を被ることなく、保有兵器の半数を廃棄できた。既に配備された兵器には東欧にも西欧にも十分な攻撃目標はない。」

マーティン・ライル
元王立天文学会員 1983/3/6

長期的影響

復旧は行われるだろうか？

知っての通り、爆風と火災の直接的効果で、リースはほぼ完全に破壊される。その後の数週間で、治療が受けられなくて、放射線障害や病気や飢餓や渇きで、何万にも人々が死亡するかもしれない。実際の英国への核攻撃では、工業や農業や金融機関などの経済機構は破壊されるだろう。貨幣はもはや価値を持

たなくなるだろう。生存者は、物々交換と自給農業体制に基づく中世のような社会で生きていくことになる。核攻撃前の生活に似たものを見出すのにも、長い年月がかかるだろう、さらに、既知および未知の多くの長期的な影響がある。これは、完全な復旧が不可能となる可能性があることを意味する。

これは地球の生命の終わりを意味するのだろうか？

核実験の結果、1960年代前半に科学者たちは大気圏のオゾンの減少を観測していた。皮膚癌を起こしたり、眼にダメージを与える紫外線をオゾンは吸収する。科学者の中には、核戦争が「オゾンの盾」を大きく損ない、多くの生命の脅かすと考えている者もいる。それが正しければ、爆弾の直接的影響を生きのびと人々は、長期的放射の影響を気にしなければならなくなる。昼光にあたることが危険に

なれば、人間は夜行生物とならざるをえないかもしれない。多くの動物や鳥が減ぶだろう。

多くの科学者たちは、地球の気候が変わると考えている。広大な森林火災が起きる。石油やガス貯蔵施設が火災になる。大気中の煙や塵によって太陽光が大幅に削減される。新たな氷河期に入るとの予測もある。

長期的健康問題は何か？

キノコ雲の中のすべての放射性塵がすぐに地球に降ってくるわけではない。一部は高層大気に何年もの間、とどまっていて、数千kmも強風で運ばれる。爆弾の放射性物質の最大10%が、爆発後25年以上も危険なままになる可能性がある。遅延した放射性降下物は、土壌、作物、動物を汚染する可能性がある。ウィンズスケール原子力発電所が小さな爆弾によっても攻撃を受けた場合、原子炉はさらに長寿命の放射性物質を放出する。そのような攻撃は、英国全体の生命を、何年も、何十

年も脅かし続ける可能性がある。

リースへの最初の攻撃を生き延びた一部の人は、その後何年もの間、低線量の放射線の影響に苦しむ可能性がある。長期的な低線量の放射能は、即時または遅延の放射性降下物を介して被曝するか否かにかかわらず、癌、特に白血病、および奇形児を産む遺伝的障害を引き起こす可能性がある。日本では、長期的な死者は最初の死傷者の数よりも約300%も多い。

民間防衛と核抑止力

一般人にとって民間防衛はどれくらい効果的だろうか？

政府は一般人が核戦争で生き残るためにどんな助言をするだろうか？ 現在の政府の助言は、出版物「Protect and Survive」に記載されている。これは、人々が家にいて、自分の仮設シェルターを作るように言っている。これは、シェルターを建設するのに十分な時間で警報が出され、資材が十分にあることを前提としている。仮設シェルターは、爆弾の爆発や火災に対する防護となる可能性は低い。リーズでは、1発の爆弾による最初の爆風で196,000人が死亡し、176,000人が負傷することが既に見てきた。しかし、仮設シェルターは放射性降下物の危険性を減らすのに役立つ。役立つ度合いは、住んでいる場所による、家が爆発により損傷していて、大量の放射性降下物が発生している地域なら、仮設シェルターはあまり役立たない。

「市民の防衛は賢明で冷静な判断によって決定されるもので、路上で空疎なスローガンを叫んだり、ウールの帽子をかぶった騒々しい人々のカーニバルの叫び声によってではない。」

P・ベーカー 国防長官 1983/3/2

公共シェルターは、一般人にとってより効果的な民間防衛手段になるだろうか？ スウェーデンやスイスなど、いくつかの中立国は公共シェルターに資金を投入している。た

だし、多くの人々は、時間内に公共シェルターに到達できない可能性がある。生存者は依然として恐ろしい余波に直面しなければならない。また、建設にも非常に大きな費用がかかる。英国では、1人あたり1,000～1,500ポンドと推定されている。民間防衛費（1982年）は、1人あたり50～75ペンスだった。政府は、公共シェルターは英国にとって現実的な選択肢ではないと述べている。

「兵器の増加には今や軍事目的はなく、戦争のリスクを高めることにしかない。誰にも利益をもたらさない。つまり、兵器の開発と製造に関与していない人々には。」

マーティン・ライル
元王立天文学会員 1983/3/6

避難はどうだろうか？ 人々は町や都市から田舎へ移動するのがより安全ではないだろうか？ これに伴う問題は、国のどの部分が完全に放射性降下物から安全であるかを誰も知らないことである。避難を計画するのに十分な時間がないかもしれない。早期の避難は敵対的な行動と見なされ、核攻撃につながる可能性がある。政府は、市民の防衛手段としての避難を否定している。「Protect and Survive」は、家を離れた人々には何らの援助も与えられないと述べている。また、他の人が使用するために空き家にした家を奪われる可能性があることも警告している。

核抑止力は戦争を阻止するのか？

政府は抑止力が37年間にわたり東西の平和御維持してきたと言っている。核兵器はなかったことにはできない。エスカレーションのリスクが、両側の攻撃開始を抑止して言える。核兵器使用は阻止されなければならないことには、誰もが同意している。しかし、抑止力は平和を維持し続けられるのだろうか？

20年以上前、米国とソビエト連邦は、互いの都市を破壊するに十分な兵器を保有していた。それ以来、両側で、核兵器の数はものすごく増大した。1970～1980年で、戦略核弾頭の数には3倍になった。一部の科学者は、抑止力に必要な量より、はるかに多い兵器が存在していると考えている。中東やアフリカの国々への核兵器の拡散は、核戦争の可能性を高めている。

「神の名において戦略的優位性とは何か？その重要性は何か？政治的、軍事的、運用的、その数のレベル的か？それで何をするのか？」

ヘンリー・キッシンジャー 1974

NATOは「柔軟対応」戦略をとっている。これは、非常な条件下では、西欧への侵略を「戦術」核兵器を使って、押しとどめることを意味する。多くの科学者たちは、この小規模な「戦場」核兵器が、核戦争の可能性を高めていると考えている。

彼らは、これらの兵器を通常軍事力の攻撃に対して使用されれば、全面核戦争にエスカレートするのではないかと考えている。

「10分間安全に綱渡りができると合理的に期待するかもしれない。しかし、200年にわたり、事故なく綱渡りを続けることを期待するのは合理的ではない。」

バートランド・ラッセル

しかしながら、多くの科学者たちの最も大きな懸念は、より近代的で高精度のミサイルである。これらは「先制攻撃」兵器として使えるだろう。これにはまもなく欧州に配備されるパーシングIIなどがある。これらの新型ミサイルは米国を攻撃可能なロシアのミサイルの狙っているとの憶測がある。これらは、限定欧州核戦争という概念を広めるのに役立てられている。これらはまた、ロシアの「警報即発射」戦略という採用という恫喝につながっている。これは偶発核戦争の可能性を大きく高める可能性がある。

これらの見方はすべて正しいかもしれない。これまでのところは抑止力は機能してきたかもしれない。一方、より多くの国々が核兵器を保有している。先制攻撃兵器システムが今や生産されている。核戦争阻止に抑止力だけを頼っていていいのだろうか？

核爆弾について普通の人ができること

何ができるのか？

まずすることは、核爆弾と皆さんや家族やコミュニティやリースへの効果について自分なりの判断を下すことである。自分なりの結論に到達するように努める。専門家に任せるのが良いと考えて、自分をごまかさない。核爆弾に対する**賛成または反対**の集会に参加することなく、自分の声を上げられる。市議会議

員、地元議員、国会議員、国防相に手紙を書いてよい。彼らの職は皆さんの投票に依存している。友人や隣人と話し合う。教会、学校、クラブ、コミュニティ組織で問題提起する。核問題に関係している多くの地方または全国組織にコンタクトする。**決めるのは皆さん自身**である。

もっと知るには？

核論争について新聞記事を読み、テレビ番組を見る。核兵器とその効果についての本は多く出版されており、その多くは市議会図書館

にある。内務省が出版物で言っていることと、米国政府や英国の科学者が出版しているものを比較する。読むとよい本には以下がある

"PROTECT AND SURVIVE; "NUCLEAR WEAPONS', "CIVIL DEFENCE-WHY WE NEED IT" - HMSO.
"LONDON AFTER THE BOMB" - Oxford University Press, paperback, price £1.95.
"HIROSHIMA" - J Hersey, Penguin Modern Classics (an account of the experience of 6 survivors), price £1.25.
"WHEN THE WIND BLOWS"- Raymond Briggs (a large format cartoon story book), price £3.95.
"AS LAMBS TO THE SLAUGHTER" - P Rogers, M Dando, P Van den Dungen, Arrow, 1981, price £1.75.
"A POLICY FOR PEACE" - Field Marshall Lord Carver, Faber and Faber, price £2.50.
"COMMON SECURITY-A PROGRAMME FOR DISARMAMENT" - A report of Independent Commission chaired by Olaf Palme, Pan Books, price £1.95.
"DEFENDED TO DEATH" - Gwyn Prins, Pelican, price £3.50.
"WAR PLAN U.K., THE TRUTH ABOUT CIVIL DEFENCE IN BRITAIN" - D Campbell, Burnett Books, 1982, price £6.95.
"NUCLEAR WAR, THE AFTERMATH" -J Peterson and D Hinrichsen, Pergamon Press, price £2.95.
"THE EFFECTS OF NUCLEAR WEAPONS"- J Glasstonc and P J Dolan, Castle House, 1980.
"THE EFFECTS OF NUCLEAR WAR" - Office of Technology Assessment, Croom Helm, 1980.

核関連用語

原爆：最初の、威力の小さい核分裂による核兵器。広島と長崎で使われた。

空中爆発：爆風被害を最大化するために核兵器を上空で爆発させる。

ABM：対弾道ミサイルは飛行してくる敵ミサイルを迎撃する。

ALCM：空中発射巡航ミサイルは2400km飛行して誤差100メートルの精度を持つ、爆撃機から発射される米国のミサイル。

弾道ミサイル：空中に投擲された物体のように重力で地球に落下して攻撃目標を狙うロケット推進ミサイル。

バックファイア：最新のロシアの長距離爆撃機。

CEP：平均誤差はミサイル精度の指標である。CEPが小さいほど、ミサイルの精度は高い。

シェバライン：潜水艦から発射される英国のポラリスミサイルの新型弾頭。10億ポンドをかけて秘密裏に1968～1979年に開発された。

CND：反核軍縮キャンペーン(Campaign for Nuclear Disarmament)は、25年前、英国の最初の水爆が爆発したすぐ後に結成された。

巡航ミサイル：弾道ミサイルと異なり、全工程を推進力で飛行するミサイル。

抑止力：報復攻撃を行うと脅すことで攻撃を阻止する。

ECOROPA：生存と核軍縮について、独立、非営利、非政治の欧州の団体。

EMP：電磁パルス。核爆弾の爆発によって生じる強力な電波バーストで、電子機器を機能停止させる。

欧州戦略兵器：欧州に配備・使用される中距離兵器。中距離核兵器あるいは戦域核兵器とも呼ばれる。

放射性降下物：瓦礫の小さな粒子で、キノコ雲に巻き上げられ、放射能汚染され、地上に放射性の塵として降ってくる。

柔軟反応戦略：通常兵器による圧倒的な攻撃に対して、核兵器で反撃するNATO軍事戦略。

火球：非常に高温で膨張する炎の球体で、核爆発から数秒以内に形成される。

発火危険区域：核爆弾の爆発後の協力な熱によって発火しやすい区域。

先制攻撃：サイロから発射される前の敵のミサイルを先制攻撃する。最近開発された、より洗練され精度の高い兵器は先制攻撃の実現性を高めた。

先制攻撃能力：敵のミサイルサイロを破壊できるだけの十分な精度のミサイルを保有し、報復を妨げ、抑止の意志を挫く。

第1度の火傷：皮膚が赤くなる。

核分裂：ウランやプルトニウムのような重原子が分裂し、原爆の強力な力を放出する。

核融合：重水素や3重水素などの軽い原子の合体で、水爆の強力な力を放出する。

ガンマ放射：核爆弾の爆発で致命的な高エネルギー線を放出する。ガンマ線は最も高密度の物質も透過する。

地上爆発：地上もしくは地上近くの核爆発で、最大量の放射性降下物を生成する。

GLCM：地上発射巡航ミサイル。米国は英国の160発など欧州に464発を配備している。第一陣はグリーンナム・コモンに1983年11月に到着した。

水爆：強力な核分裂による核爆弾。

ハードロック(Hard Rock)：1982に政府が実施した民間防衛演習の名称。

半減期：放射性原子の50%が放射能を失うのに要する時間。

ICBM：最大射程14,400kmの大陸間弾道ミサイル。

IRBM：最大射程4,000kmの中距離弾道ミサイル。

KT：キロトン。1000トンのTNTに相当する。

警報即発射：相手側から攻撃を受けている考えた側が、直ちに核による反撃を行う。

LD 50：成人の50%が死亡する放射線量。2日間で約400～500ラド。

MCANW: 核兵器に反対する医療キャンペーン。医師・医療関係者の独立団体。

MT: メガトン。1,000,000トンのTNTに相当する。

MIRV: 複数個別誘導再突入体。異なる攻撃目標を持つ複数の弾頭を持つミサイル。

MX: 米国の新たな長距離高精度ミサイルで、10個の弾頭を搭載する。

多国間核軍縮: すべての核保有国が時刻が保有する核兵器を削減する合意。

NATO: 北大西洋条約機構は、西側諸国により1949年に結成された。軍事リーダーは常に米国である。

超過圧力: 核爆発により生じる爆風の力。ポンド毎平方インチで表現される。

プラットフォーム: 核兵器を発射する構造体。サイロや車両や航空機や潜水艦など。

ポラリス: 英国の潜水艦発射ミサイル。

ポセイドン: 米国の潜水艦発射ミサイル。

パーシング2: 新型の高精度、中距離(1600km)の米国の地上発射弾道ミサイル。1985年末までに西独に108発が配備される。第一陣は1983年12月に配備された。

PF: 防護ファクターは放射線に対する建物の防護力の理論的計測値。

核拡散: 成果中の国々での核の増大と拡散。

ラド(Rad): 人体が吸収する放射線量の単位。

放射線: ガンマ放射線参照。

放射能: 有害な核放射すなわちガンマ線や高エネルギー粒子の放出。

残留放射線: 放射性降下物からの放射線。

SALT: 米国とソ連の間の第一次戦略兵器制限交渉。

START: 戦略兵器制限交渉。1982年以降のSALTの名称。

SANA: 核武装に反対する科学者。科学者の独立団体。

第2度の火傷: 皮膚にひどい水膨れ

第2撃能力: 核攻撃を受けた後に報復を可能とする十分に防護されたミサイルの保有。抑止戦略に不可欠。

スクエアレッグ(Square Leg): 英国に対する200メガトンの各区劇を想定した1980年の英国政府の民間防衛演習の名称。

SSミサイル: SS18やより近代化された中距離SS20などの、ロシアの地対地ミサイル。

戦略兵器: 長距離の大陸間兵器。

SLBM: 潜水艦発射弾道ミサイル。

戦域核兵器: 中距離兵器。欧州に配備・使用される。

熱放射: 核兵器の爆発で放射される熱線。

熱核兵器: 水爆。

タイタン: 9メガトンの弾頭を搭載し、15,000kmの射程を持つ、米国最大のミサイル。1980年には、これらのミサイルのひとつがサイロ内で爆発し、弾頭を60メートル投擲。

トマホーク: 米国のGLCMの名称。

第3度の火傷: 皮膚が焦げる。

トライデント2: 米国の新型の長距離の高精度で破壊力のあるSLBMで、英国はポラリスをトライデント2に置き換える。

一方的核軍縮: 一国が、独立に核兵器を削減あるいは廃絶する決定。

UKWMO: 英国警報監視機構は、英国に対する核攻撃を感知する。

弾頭: ミサイルによって輸送される核爆弾。

水中爆発: 核兵器の海洋（ふつうは海中）での爆発。

ワルシャワ条約機構: 東欧の友好相互協力機関。ルーマニア以外の加盟国にロシア軍が駐留する。

核兵器の威力: 核弾頭の破壊力で、キロトンあるいはメガトンで計測される。

ゼロオプション: 米国版は、ロシアがSS20を欧州から撤去すれば、巡航ミサイルやパーシングIIを配備しない。ロシア版は米ソのミサイルが欧州で対峙しない。

「リーズ市議会の事業を祝福し、核戦争の恐怖についてある程度理解したいすべての人にこの本を推薦する…」ーマイケル・フット

「魅力的な小さな本...よくできている」ージョン・ウェリントンY.E.P.

「よく研究され公平な」ーイ英国医師会

「市内での核攻撃の予測される影響を詳細に公開した国内初の地方自治体」ーガーディアン

「多くの質問に答えようとしている」ーヨークシャーイブニングポスト

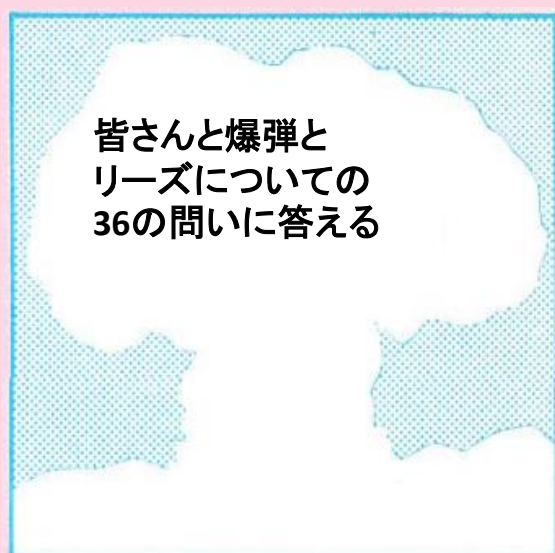
「この種の最高のブックレット」ーブルース・ケント猯下

「その目的は、リーズの人々が核兵器について自分自身の決心できるようにすることである」ーザ・タイムズ

「その種の最初のものだろう」ーヨークシャーポスト

「見事だ」ージェームズキャメロン

「すばらしい」ーマーリン・リーズ国会議員



「大規模攻撃で専門的医療サービスが崩壊し、治療は応急処置と痛みの緩和に限定されることになるだろう。生存可能性が最も高い人々に最も注意を払うという原則が、最も重い病気に罹っている人々に最大限の援助をするという原則に取って代わるだろう。現在の形態の医療サービスは、この島に対する大規模な核攻撃の後に消滅するだろう。」

英国医学会